

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽南 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 241 人	社会 241 人	数学 240 人
	理科 240 人	英語 242 人	

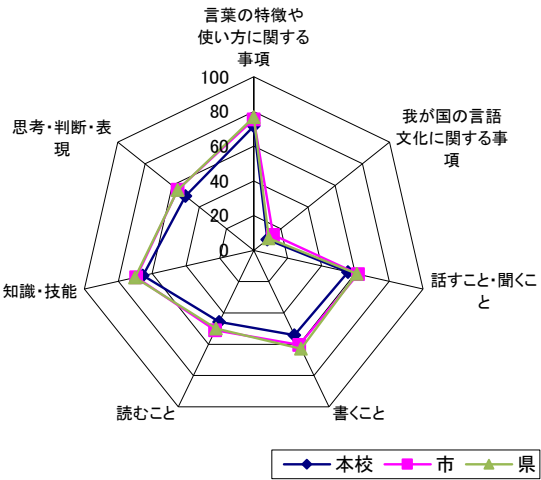
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.6	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	10.0	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	55.7	61.6	60.9
	書くこと	54.2	60.4	62.9
	読むこと	45.7	51.0	49.9
観点	知識・技能	65.4	69.4	70.1
	思考・判断・表現	50.3	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

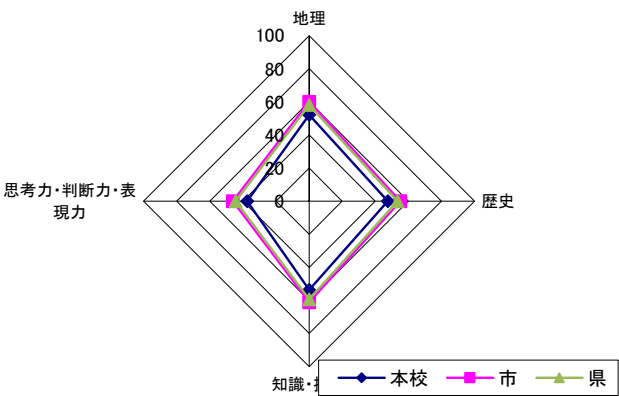
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○第1学年までに学習した漢字の読み取り問題では正答率が90ポイントを上回っている。文節の関係についての問題では、回答率も高く、80ポイント以上の生徒が正答することができている。 ●小学校で学習した漢字の書き取り問題が県平均と比べて17ポイント下回っている。	・今までに学習した漢字を日常生活の中で正しく使うことができるように漢字の小テストなどを定期的実施する。 ・書き取り問題が苦手な傾向が見られるため、漢字テストやワークの問題で学習させるだけではなく、授業中に短文を書かせたりすることを実施したい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く問題では、無回答率が市の平均、県の平均を下回っている。 ●しかし、正答率は10ポイントと、市と県の平均を下回っている。	・歴史的仮名遣いの正答率を上げるために、まずは正しく読めるようにしていきたい。そこで、古文の授業においては、正しい読み方を範読させたり、反復読みをさせたりと音読の時間を丁寧に取り入れたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し手について考え適するものを選ぶ問題では、無回答率が1ポイント未満であり、正答率も60ポイントを上回っている。 ●しかし、記述式の問題は無回答率が21ポイントであり、条件を満たさできていない記述の回答が多い。	・目的や条件を考え、適切な話し方をするを普段の授業から意識させるため、スピーチや討論会などの学習を取り入れていきたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●自分の考えや条件に沿った文章を書く問題では無回答率が20ポイントを上回っており、県の平均と10ポイント以上の差がある。	・自分の考えや感じたことを文章にする場を普段の授業から多く取り入れるようにする。さらに、そこで自分の書いた文章や相手の文章を推敲させることで、書くことの基礎を身につけさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章の内容について叙述を基に捉えることができるかどうかの問題では、正答率が50ポイントを上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈できるかどうかの問題では、県全体の正答率を10.5ポイント下回っている。	・文章の表現から、筆者の意見を的確に捉えることができるように、語句の意味を理解し、論の進め方について意識させるとともに、話し合いから考えを深める授業を展開する。さらに、そこから自分の考えを書いたり、話し合ったりする練習をさせる。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	52.2	60.1	58.1
	歴史	47.6	55.1	53.5
観点	知識・技能	53.6	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	37.4	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

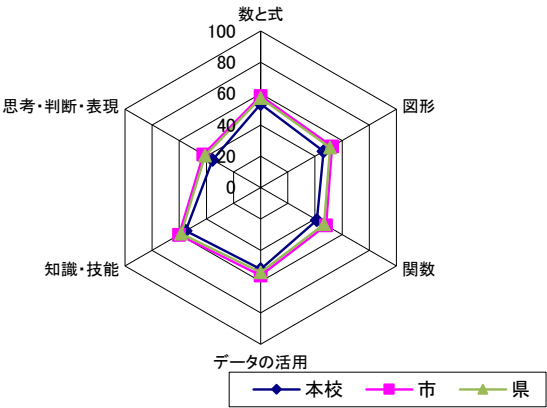
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、市の平均より7.9ポイント低い。</p> <p>○排他的経済水域の範囲や権限についての選択式の問題では、正答率が県の平均を6.4ポイント、市の平均を5.7ポイント上回っており、高い理解を示している。</p> <p>●正距方位図法の地図の特徴を選択する問題では、正答率が県の平均より10.7ポイント、市の平均より12.2ポイント低い。</p> <p>●資料をもとに熱帯と亜熱帯の住居のつくりについて考察し、共通点を見出す記述式の問題では、正答率が県の平均より14.5ポイント、市の平均より16.7ポイントと大きく下回っている。</p> <p>●短答式や記述式の問題では、無解答率が県や市の平均よりかなり高い。</p>	<p>・地図の特色を把握する問題については、「緯線と経線が直角に交わった地図」「中心からの距離と方位が正しい地図」「面積が正しい地図」での、それぞれの目的・活用方法を地図を使って復習し、問題練習に数多く取り組ませることで理解を深めさせる。</p> <p>・地理的分野における基礎的・基本的内容の定着を目指し、生徒の興味関心を少しでも高められるよう、教材研究を行い、授業を改善していく。</p> <p>・資料を読み取る力を身に付けるために、ひとつひとつの資料から分かることを記述する時間や複数の資料を比較したり関連付けたりする時間を授業で適時設定する。</p> <p>・初見の資料でも活用できる力を身に付けるために、授業では扱わなかった資料を定期テストで出題するなど、評価の仕方を工夫していく。</p>
歴史	<p>平均正答率は、市の平均より7.5ポイント低い。</p> <p>○古代文明の特色についての選択式の問題では、正答率が県の平均を0.9ポイント上回った。</p> <p>●鎌倉幕府の役職名を問う短答式の問題では、正答率が県の平均より12.7ポイント、市の平均より15.9ポイントと大きく下回っている。</p> <p>●平城京から平安京に遷都したときの変化について、複数の資料をもとに考察する、記述式の問題では、正答率が県の平均より9.3ポイント、市の平均より10.0ポイント低い。</p> <p>●シルクロードを通じた東西交易について、複数の資料を関連付けて考察する記述式の問題では、正答率が県の平均より9.0ポイント、市の平均より11.3ポイント低い。</p>	<p>・古代から中世にかけての既習事項を確認する時間を授業中に設けるなど、復習できる学習環境を整える。</p> <p>・年表や各資料を活用して、時代を横断した大きな流れで歴史を理解できるように学習を進めさせる。</p> <p>・歴史的分野における基礎的・基本的内容の定着を目指し、生徒の興味関心を少しでも高められるよう、教材研究を行い、授業を改善していく。</p> <p>・個別最適な学びに向けて、生徒ひとりひとりの学習状況を把握し、支援を充実させる。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.4	58.6	57.2
	図形	46.3	52.6	51.1
	関数	41.4	48.2	46.8
	データの活用	52.1	56.1	54.1
観点	知識・技能	55.3	60.2	58.6
	思考・判断・表現	35.5	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

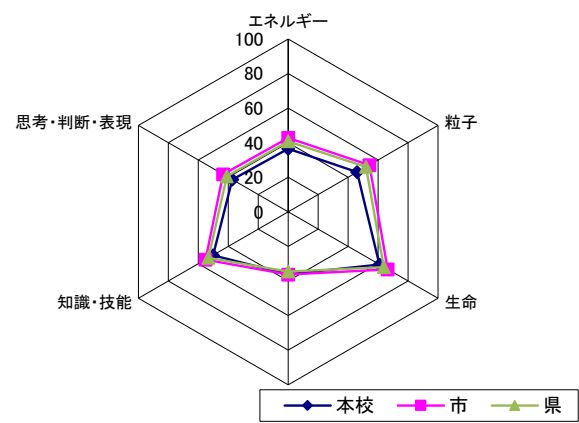
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均より低い。 ○素因数分解をする問題や正の数、負の数の大小関係を選ぶ問題では市や県の平均を上回っている。 ●式の意味を説明する問題、比例式について当てはまる式と数を答える問題などの文章が長い問題や自分で説明する問題については無回答の割合が多い。	・2～3割の生徒は正負の数、1次方程式の計算につまづきがある。このことから、計算分野の授業を行う際に前学年に戻って復習を行いつつ授業を進める必要がある。 ・文章が長い問題や自分で説明する問題については、授業中に考えを伝える機会を増やし、様々な考えに触れる機会を増やす。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○回転移動した角度の問題については県平均よりもやや高い。 ●おうぎ形が円の何倍かを求める問題では1/5倍が答えだが、5倍と答える誤答が半数を占めていた。角錐と角柱の体積の関係を答える問題で2杯という誤答が25%であった。	・角錐と角柱の体積の関係については、水が何杯入るかの実験を実際にやってみたり、映像で見せるなどして、公式とともに生徒が覚えられるように印象付ける。 ・デジタル教科書やタブレット、実際に触ってみるなどして視覚的に捉える機会を増やす。
関数	平均正答率は、市の平均より低い。 ●分数の比例のグラフを書く問題が市平均より10ポイント低い。与えられたグラフから答えを求める問題でも低い。	・式とグラフと表を関連付けながら、授業を行う。 ・ランドルト環のように、身の回りの関数の問題をより多く扱い定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い、他の領域よりも差が小さい。 ○階級値から平均値を求める問題では県平均を上回ったが市の平均より低い。 ●言葉の意味が理解できていなく、正しい解答を選べない問題が多い。	・問題や身の回りのデータと関連させながら、言葉の使い方や意味について知識を深めていく授業を行う。 ・2、3年生でも1学年の復習をして、言葉の意味を確認してからデータの活用の分野を進める。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	36.5	42.8	40.8
	粒子	46.0	54.2	52.0
	生命	60.9	66.4	63.8
	地球	36.1	36.2	34.5
観点	知識・技能	50.2	55.2	53.3
	思考・判断・表現	37.4	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

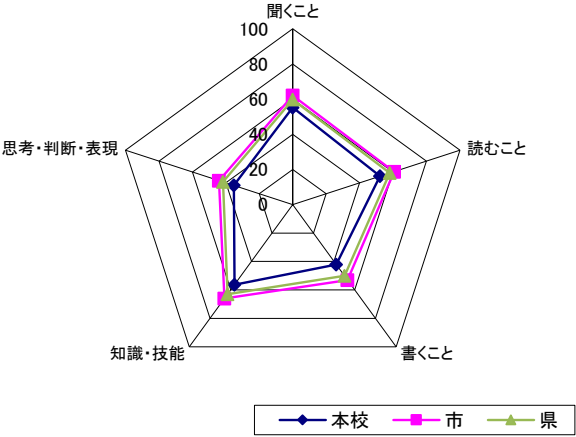
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は市平均よりも低い。 ○スクリーンに映る像について選択する問題において、県平均よりもよくできている。実験活動において、体験的に得た学びが知識として身につけていることが分かる。 ●光の道すじを示すことに課題が見られる。 ●音を高くする方法や、音の高さと波形の関係の理解に課題が見られる。	・図を用いてイメージしたり自分で作図する活動を充実させ、実際に目に見えない現象についても理解を図れるようにする。 ・問題演習や復習の時間を設け、基礎、基本の充実を図れるようにする。
粒子	平均正答率は市平均よりも低い。 ○物体が鉄でできているかどうかを調べる実験について選択する問題において、県平均よりもよくできている。実験活動において、体験的に得た学びが知識として身につけていることが分かる。 ●気体の性質を説明することに課題が見られる。 ●気体の発生方法の理解に課題が見られる。	・実験活動において生徒が思考する時間を意図的に増やしていく。結果の予想や考察の時間をより多く設け、思考の言語化や事象の説明について経験の充実を図れるようにする。 ・問題演習や復習の時間を設け、基礎、基本の充実を図れるようにする。
生命	平均正答率は市平均よりも低い。 ○脊椎動物の子の生まれ方に答える問題について、県平均よりもよくできている。授業で説明された語句について理解出来ていることが分かる。 ●動物の呼吸の仕方と生活場所の関連について説明することに課題が見られる。 ●無脊椎動物の分類について理解に課題が見られる。	・覚えた語句について、個々の理解を深めるとともに、それぞれの関連性の理解を充実を図れるようにする。 ・問題演習や復習の時間を設け、基礎、基本の充実を図れるようにする。
地球	平均正答率は市平均と同程度であり、県平均より高い。 ○化石の種類を答える問題について、県平均よりもよくできている。授業で説明された語句について理解出来ていることが分かる。 ○マグニチュードと震度について正しい記述を選択する問題について、市平均よりもよくできている。授業で説明されたことをよく理解し、内容を整理出来ていることが分かる。 ●地震の震源からの距離や速さを求めることに課題が見られる。	・計算の問題演習や復習の時間を設け、距離、速さ、時間の関係の理解を深めるようにする。

宇都宮市立陽南中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	55.2	62.0	59.7
	読むこと	52.2	60.6	58.0
	書くこと	42.2	53.1	50.1
観点	知識・技能	56.3	66.0	63.0
	思考・判断・表現	35.2	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べて6.8ポイント低い。</p> <p>○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、平均正答率が82.2%と高かった。この形式の問題は教科書でも実施しているため生徒も慣れているものと考えられる。</p> <p>●英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える問題では、正答率が14.1%と低かった。いくつかの情報から自分の考えを英語でまとめるような練習は、日々の授業ではなかなか扱えていないことも原因と考えられる。</p>	<p>・今後も普段の授業の中に可能な限り、まとまった量の英語を聞き取らせる指導を組み入れていきたい。ALTとのチームティーチングがその最たるものであるが、学年に応じてALTの説明や指示の日本語での補足を減らして、生徒たち自身の力で推測させるように心がけたい。</p> <p>また、教科書の内容をデジタル教科書等で導入する際、会話や物語の内容を追わせる上で、あまり詳細にこだわらずに話の流れをつかませ、あらすじを書かせたり、特に、ポイントとなる質問に答えさせるなどの活動を増やしていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べて8.4ポイント低い。</p> <p>○英文から、適した語を選ぶ問題では、平均正答率が78.5%とやや高かった。ある程度のレベルの情報であれば正答を類推することができると考えられる。</p> <p>●対話から必要な情報を読み取り、適切なイベントを選ぶ問題では、正答率が41.3%と低かった。複数の情報を読み取って答えを出したり、細かい内容まで理解することはできていないと考えられる。</p>	<p>・教科書の読み物教材を扱うときには、最初に大雑把に読んでから○×テストを行うなどの工夫をしたり、人称代名詞や不定代名詞や指示語が何をさしているかなどの問題を出すなど、読み取り方にメリハリをつけさせたい。</p> <p>また、実際に役割を演じながら読みの練習をさせることにより、自然に会話の流れがつかめるようにさせたい。電話、メール、道案内、買い物等、教科書の進度にあわせて様々な場面で全員にペアワークをさせていきたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均に比べて10.9ポイント低い。</p> <p>●対話の流れに合った英文を書く問題では、平均正答率が14.1%と低かった。1年次で学習した疑問詞の用法やbe動詞の時制が確実に定着していないと考えられる。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の一般動詞やcanを使った肯定文の問題では、平均正答率が14.1%と低かった。これも同様に多くの生徒がつまづいていると考えられる。</p>	<p>・過去に学習した単語、熟語、慣用表現、基本文を復習するために、家庭学習の課題として書き取りの宿題を課すなど、授業では確保しにくい「英語を書いて練習する活動」に取り組ませたい。</p> <p>作文に関しては、授業での基本文定着活動(ペアで矢継ぎ早にキーセンテンスをインプットする活動)や、自己表現英作文(その授業の基本文をテーマとする表現)に力を入れていきたい。その際、基本となる文に加えて、さらに2・3文の自己表現が続けられるように促していきたい。</p>

宇都宮市立陽南中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」という質問に92.6%の生徒が肯定的回答をしていて、県の平均を0.9%上回っている。また、「人と話すことは楽しい」という質問に95.9%、「家の人と学校のできごとについて話をしている」という質問に83.1%の生徒が肯定的回答をしていて、日常生活でコミュニケーションを取る力はあると思われる。

○「人と話すことは楽しい」「思いやりをもって接している」「自分の良さを人のために生かす」という質問に対していずれも県の平均を上回っている。コミュニケーションをとうとうとする意欲が感じられる。

●授業において「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」や「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問については、肯定的回答が県の平均を4.6～4.8%下回っている。今後、授業において、話し合う活動を充実させ、生徒が授業においても積極的にコミュニケーションをとることにより、学習効果を高めていけるようにしていきたい。

●「次の教科の授業の内容はよくわかりますか」という問いの肯定的回答は、5教科とも県の平均値を下回った。また、「次の教科の学習は好きですか」という問いでは、肯定的回答が国語・保健・美術は、県の平均を上回ったが、他は県の平均を下回る結果だった。

●「授業の中で目標(目当て・狙い)が示されている」という問いでは、肯定的割合が88%であり、県の平均を7%程度下回っている。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という問いでは、肯定的割合が66.5%で、県の平均を8%程度下回っている。これらは、教職員の意識とかなりの開きがあり、「目標の示し方」「振り返りの方法」等の改善をしていく必要を感じる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努める。 ・家庭学習の充実 ・系統性のある継続したキャリア教育の取り組みに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学業指導の理念・宇都宮モデルを踏まえる。 ・魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、課外学習の実施。 ・タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を図るとともに、AI型ドリルの積極的な運用に努める。 ・「宮・未来キャリア・パスポート」を活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で学習時間は2時間以上の回答が20.2%となっていて、県の平均を8%下回っている。 ・土日の家庭学習時間は2時間以上の回答が39.2%となっていて、県の平均を4.4%下回っている。 ・話し合い活動で考えを深めたり広げたりしている生徒の割合が県の平均を7%程度下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での勉強のためのタブレット使用を促すことで、家庭学習を充実させる。 ・学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動を行う。 ・話し合い活動の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習でAIドリルの利用や調べ学習を行う。 ・授業を見直し、自分の考えをまとめる活動に力を入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIドリルの活用。自主学習ノートの活用 ・タブレット活用(ジャムボード等)により、意見表明の機会を増やしていく。 ・対話から学びが深まる授業形態の工夫を行う。 ・目標の提示の仕方の工夫や振り返る活動を工夫する。